三重県埋蔵文化財センター フィールドワーク

北伊賀の歴史を訪ね歩く

伊賀国庁跡　発掘調査全景

行　程 (約 7km)

■集合：JR 関西線 佐那具駅前　受付：10 時～　開会行事：10 時 20 分～

●10：30　出発
勘定塚古墳 → 伊賀国庁跡 → 中世城館跡 (山出氏館跡)

●12：30　昼食休憩 (波多岐神社)

●13：30　出発
中世城館跡 (菅野氏館跡・鹿島氏館跡) → 山神寄建神社古墳
→ 北門古墳 (前田教育会館) → 三田廃寺

●15：30　伊賀上野駅前　解散

平成 26 年 3 月 8 日 (土)　三重県埋蔵文化財センター

コース周辺の歴史背景

伊賀は、四方を山に囲まれた盆地です。地理的な独立性や近畿圏との近接性によって、隣の伊勢とは異なる地域性をもった歴史文化が育まれていきました。

また、盆地内は、柘植川・服部川・木津川・名張川が形成する水系によって４つの小地域に分かれます。この小地域は、文化的なまとまりを持ち、古代になると、この小地域を中心とした４つの郡が設置されます。

【北伊賀地域】

柘植川流域である本地域は、三重県最大の御墓山古墳が造営され、伊賀国府がおかれるなど、古代における政治・文化の中心としてきわめて重要な地域でした。

1　旧石器・縄文・弥生時代

現在のところ、伊賀の旧石器時代遺跡はあまりはっきりしていません。縄文時代以降、丘陵や小河川流域から開発が進められます。

【北伊賀地域】

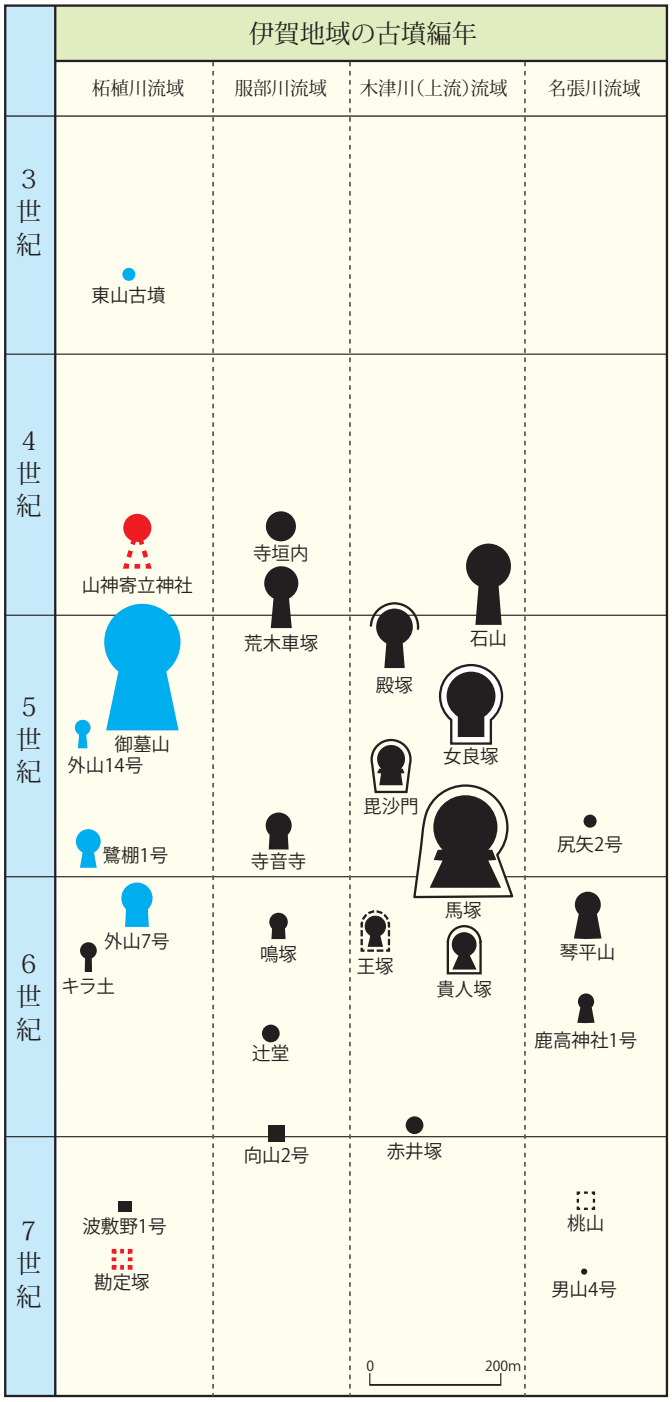
縄文～弥生時代の大規模な遺跡は確認されていませんが、佐那具周辺には、弥生時代後期～古墳時代初めの集落があり、次の時代への胎動を感じさせます。

2　古墳時代

古墳時代の伊賀は、畿内の影響を強く受けています。県内のトップ３に入る規模の古墳は全て伊賀にあります。小地域の独立性は強く、柘植川流域、服部川流域、木津川（上流部）流域、名張川流域の４地域で前方後円墳を中心とした首長の系譜が確認されます。

【北伊賀地域】

古墳時代前期以来の首長の系譜を持ち、５世紀前半には県下最大の御墓山古墳が築かれるなど、伊賀全体への影響力を持っていた様子が伺えます。



水口昌也「伊賀」『全国古墳編年集成』雄山閣出版1995年 一部改変

■見学
■説明あり

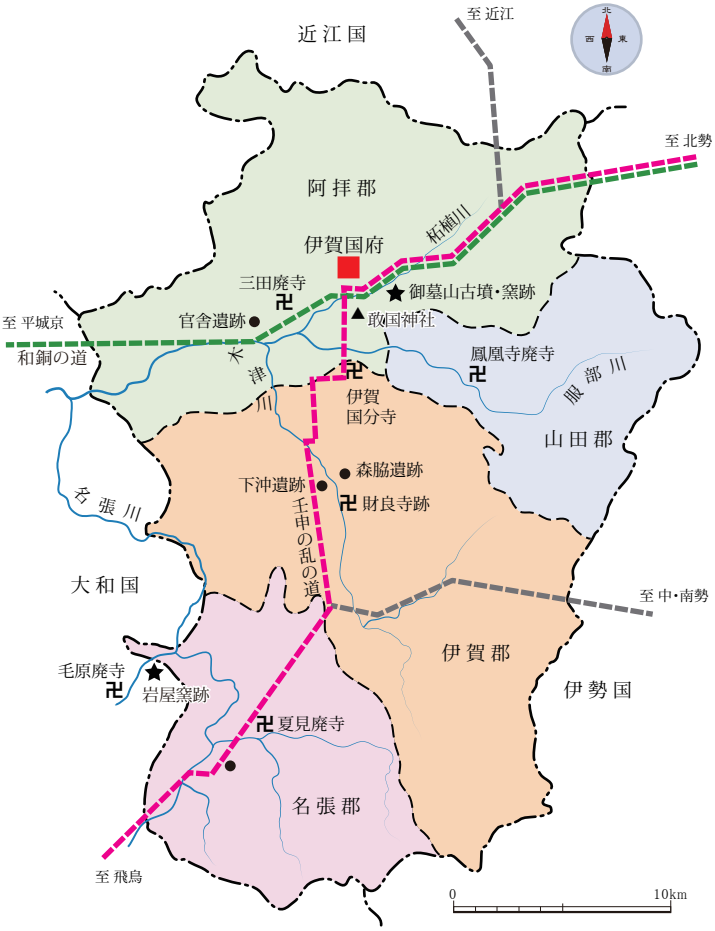
3　古 代

古代の「伊賀国」には、柘植川流域に「阿拝郡」、服部川流域に「山田郡」、木津川（上流部）流域に「伊賀郡」、名張川流域に「名張郡」があり、国分寺と国分尼寺を除いて、各郡に一箇所の古代寺院が設置されています。

【北伊賀地域】

古代の「阿拝郡」にあたります。
阿閉氏の本拠地とされ、南宮山西麓に、伊賀一之宮敢国神社が祀られています。

古代伊賀の主な遺跡と官道



穂積裕昌「伊賀地域」『日本の古代遺跡』保育社1996年 一部改変

■国府と国分寺・国分尼寺

古代伊賀の中心は北伊賀地域で、阿拝郡に国府が、伊賀郡・阿拝郡の境界には国分寺・国分尼寺がつくられました。

■壬申の乱の道

古代の伊賀は、畿内から東国に至る重要なルート上に位置していました。壬申の乱（672年）では、吉野を逃れた大海人皇子（後の天武天皇）の軍勢が伊賀を駆け抜け、加太峠を超えて伊勢に入り、勝利をおさめました。「名張の駅家を焼く」などの記述もあり、当時から官道が整備されていたことが想定されています。飛鳥から名張に至る現在の国道165号線に近いルート、伊賀盆地中央を縦断するルートが開拓されていたのでしょう。

■和銅の道

和銅４年（711年）、前年の平城京遷都に伴い、奈良から各地に延びる官道が整備されました。古代の東海道は、現在の163号線に沿った北伊賀を東西に横断するルートが想定されます。道筋には、三田廃寺・伊賀国庁跡などがあります。

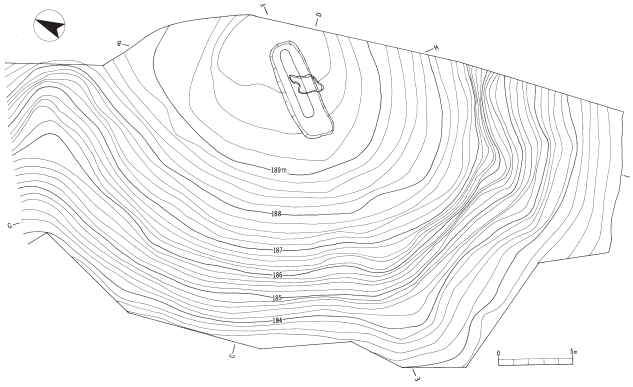
4　中 世

伊賀には、600ヶ所以上の中世の城館跡が残っています。密集度は日本一です。伊賀は、強力な戦国大名が支配することなく、土豪の小規模な連合体が独自の方向で動いていたため、このように多数の城館が築かれたものと考えられます。

主な遺跡（見学地外）

■東山古墳（円徳院字東山、４世紀前半）

県内最古とされる古墳で、丘陵の突端に長径21m、短径17mの楕円形の墳丘が確認されています。埋葬施設は木棺直葬で、長さ6.9mの墓壙に、長さ4.5mで底に朱が塗られた木棺が据えられていました。銅鏡（四神鏡）、銅鏃・鉄鏃・鉄剣、土師器等が出土しています。



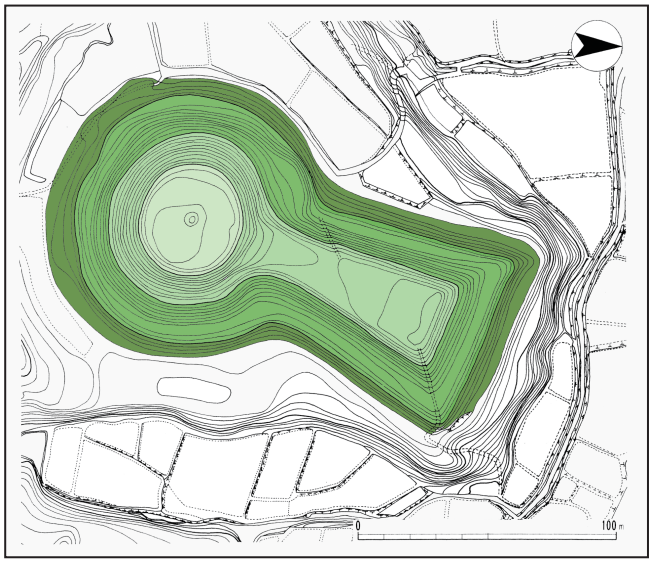
東山古墳発掘調査後測量図

東山古墳出土 四神鏡

国史跡

■御墓山古墳（佐那具町字天王下、５世紀前半）

南宮山から派生した丘陵の端部に立地する、県内最大、全長188mの前方後円墳で、国史跡に指定されています。被葬者は伊賀全体の首長権を掌握した、伊賀を代表する盟主であったのではないかと考えられます。発掘調査は行われていませんが、墳丘から円筒埴輪片、蓋形埴輪片、家形埴輪片などが出土しています。

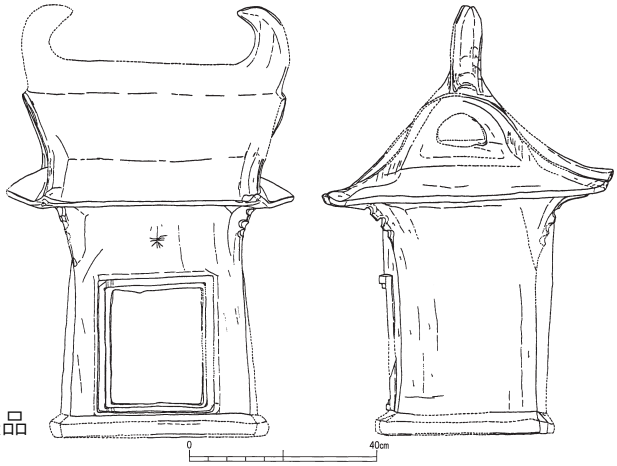


御墓山古墳測量図

『伊賀市史』伊賀市2011年 一部改変

■御墓山窯跡（佐那具町字中坂、７世紀後半 ～８世紀前半）

御墓山古墳の南側丘陵の斜面に立地する、３基からなる須恵器の窯跡です。椀や皿のほか、硯や、須恵質の宮殿形陶製品、陶棺が出土しました。周辺には瓦窯跡もあり、この地域の窯業の拠点だったと考えられます。



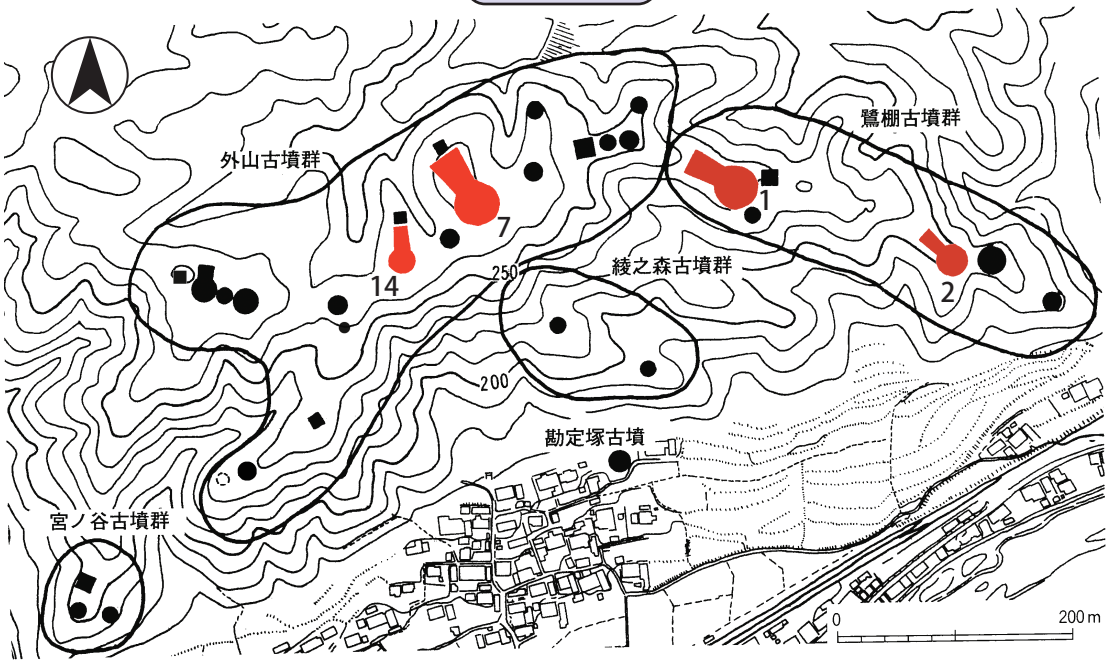
宮殿形陶製品

『御墓山窯跡発掘調査報告』上野市教育委員会・上野市遺跡調査会1999年

■外山・鷺棚古墳群（外山字宮ノ谷ほか、５世紀中葉～６世紀前半）

柘植川北岸の丘陵尾根に立地する、前方後円墳４基と多数の円墳・方墳からなる古墳群です。最大の前方後円墳は、全長64mの外山７号墳です。御墓山古墳から引き続く北伊賀地域の首長の系譜に連なる墓であると考えられています。

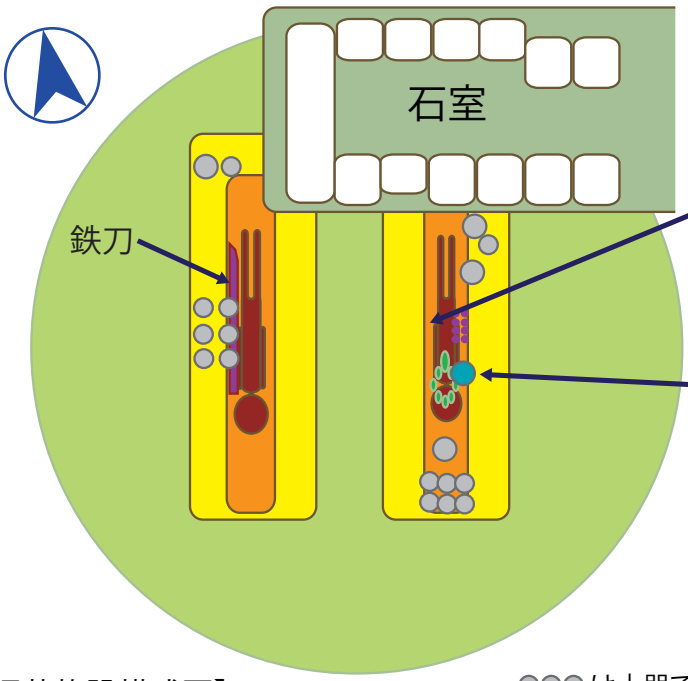
古墳分布図



古墳の番号は『上野市遺跡地図』上野市教育委員会1992年による

■東条１号墳（東条字屋敷之下、6世紀前半）

丘陵の尾根上に立地する、直径約10mの規模の円墳で、３基の埋葬施設があります。埋葬施設のうち、２基が木棺直葬、１基が横穴式石室でした。小規模古墳ですが、銅鏡（四獣鏡）、鉄刀、銅釧、玉類などの優秀な副葬品が出土しています。



【埋葬施設模式図】

銅釧〔銅のうでわ〕

四獣鏡

●●●は土器です

遺跡まっぷ

見学場所　トイレ　昼食

山神寄建神社古墳

東条１号墳

菅野氏館跡

勘定塚古墳

伊賀国庁跡

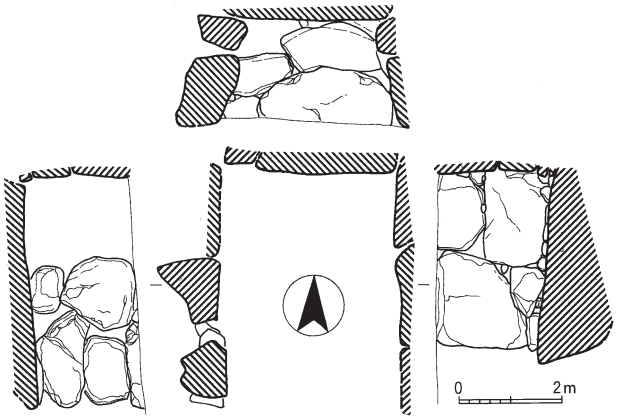
御墓山古墳

見学する遺跡を紹介します

市史跡

勘定塚古墳（外山字綾之森、7世紀前半）

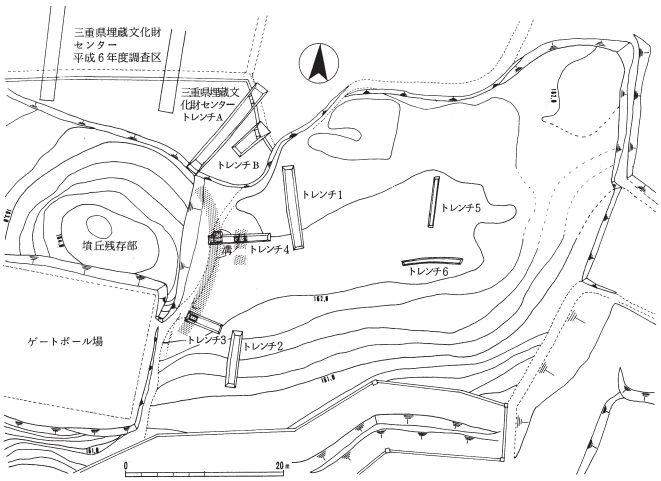
古墳の形や規模とも不明ですが、南側に開口した、横穴式石室の奥壁及び側壁の一部が残存しています。残存長4.6m、幅3.6m、高さ2mで、巨石を使って築造されており、北伊賀地域の首長の系譜に連なる墓であると考えられています。



石室実測図　『上野市史　考古編』伊賀市 2005 年

山神寄建神社古墳（山神字東出、4世紀後半）

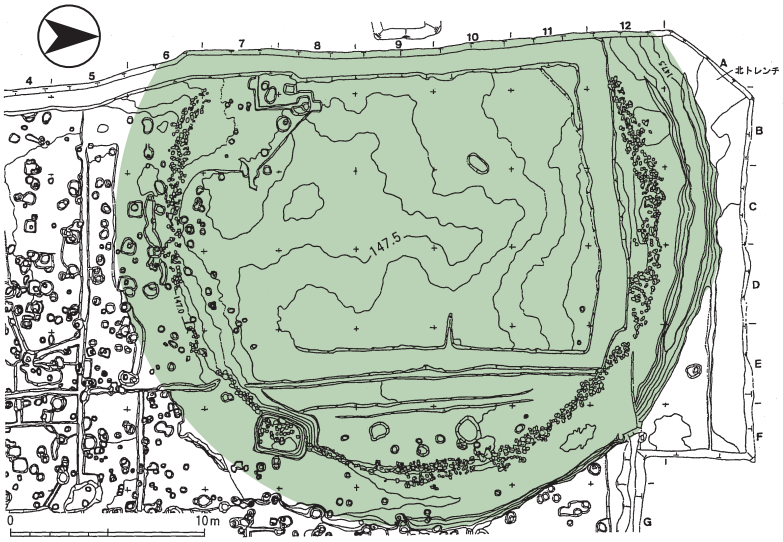
大正9年（1920年）に地元の方々によって発掘され、銅鏡（三角縁神獣鏡、変形神獣鏡）、ヒスイ・メノウ製勾玉、鉄剣、鉄斧などの多数の遺物が出土しました。これらは、東京国立博物館に収蔵されています。近年のトレンチ調査で、墳形は円墳である可能性が高く、葺石が葺かれていること、埴輪を伴わないことなどがわかりました。



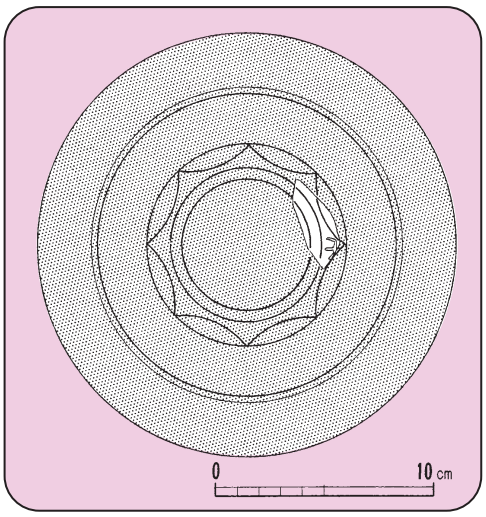
試掘坑配置図　『上野市文化財年報9』上野市教育委員会 1996 年

北門古墳（大谷字北門、5世紀後半）

前田教育会館建設に伴い、北門遺跡を発掘調査した際に発見されました。直径約25mの円墳で、幅約2.5mの周溝が巡らされていました。墳丘の大半は削平されており、埋葬施設は見つかりませんでしたが、墳丘裾部には葺石が良く残っていました。周溝からは、円筒埴輪片・盾形埴輪片、須恵器甕などが出土しています。北門遺跡からは、内行花文鏡の破鏡（鏡の破片、断面などが磨かれている）が出土しています。



墳丘平面図　『上野市文化財年報9』上野市教育委員会 2003 年 一部改変



内行花文鏡模式図　『上野市史　考古編』伊賀市 2005 年 一部改変

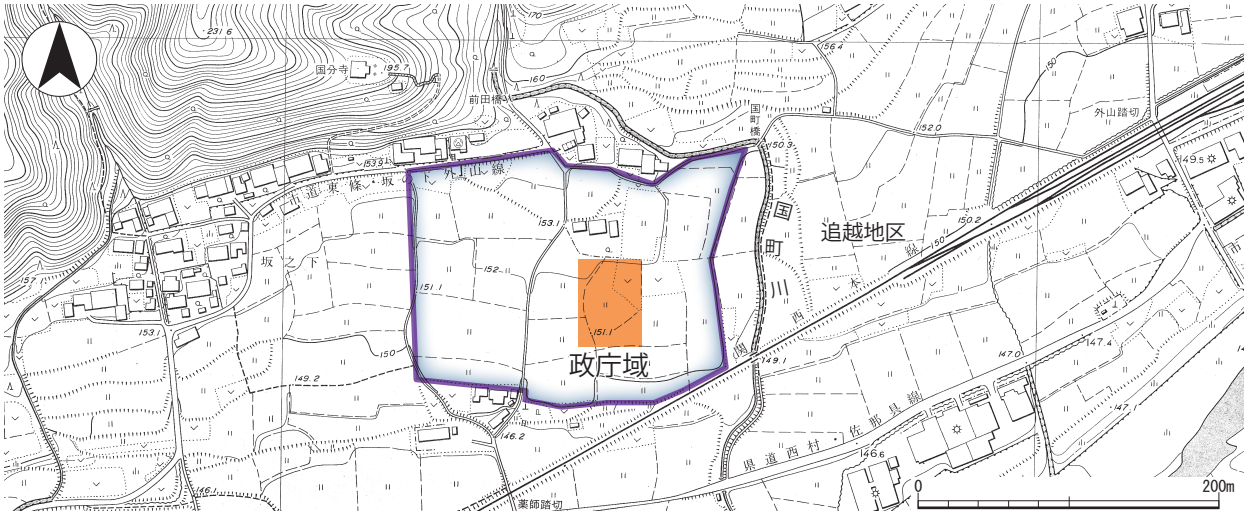
国史跡

■伊賀国庁跡（坂之下字国町ほか、奈良～平安時代ほか）

伊賀国府

国府とは、古代の国の役所があった都市域のことで、「方八町（約850m四方）」や「方四町」の敷地があるとされています。伊賀の国府跡は、広い敷地、条里制地割り、「国府湊」地名が残る柘植川の南岸にあると考えられてきました。しかし、昭和63年の柘植川南岸の発掘調査では、国府に結びつく遺構や遺物は確認されませんでした。

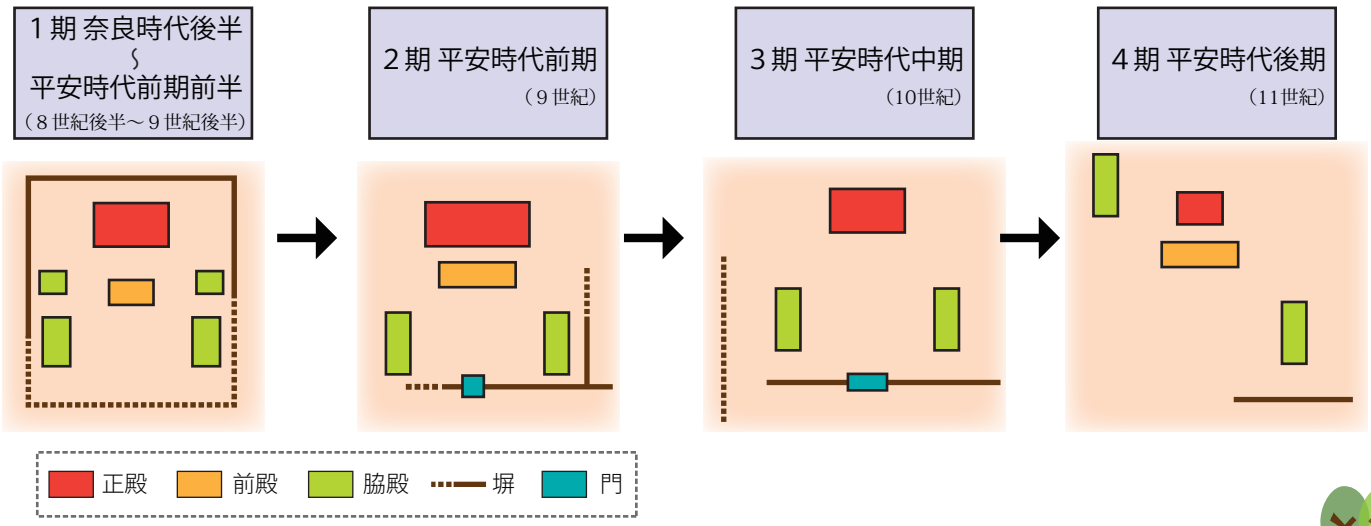
平成元年～３年の、柘植川北岸の「国町（こくっちょ）」と呼ばれている場所の発掘調査により、国府の政庁（国庁）が確認されました。平成21年には、「伊賀国庁跡」として国史跡に指定されています。



…国史跡指定範囲

伊賀国庁の特徴

- 範囲 …… 政庁域を中心とした、南北150m、東西200m、「国町川」が東限
- 存続時期 … 奈良時代後半（8世紀後半）～平安時代後期（11世紀代）
- 政庁建物 … 建物が、「コ」の字型に配置されている（役所の特長）
  場所を変えずに3回建て直しされた（４期に区分される）
  瓦葺きではなかった
  3期から一部礎石建物になる



伊賀国庁跡の出土遺物

平安時代の土器類を中心に、多くの遺物が出土しました。当時の日常雑器であった土師器、須恵器、黒色土器のほか、高級な器であった緑釉陶器や灰釉陶器も出土しています。円面硯・風字硯・猿面硯といった硯や、「國厨」「目■」「■寺」などと書かれた墨書土器も出土しています。

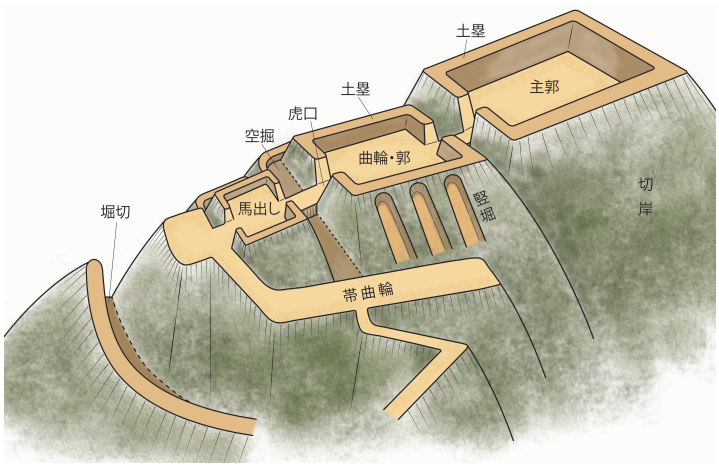
国庁域から国町川を挟んで東側の追越地区では、国庁とは方向の違う建物が確認され、阿拝郡に関する施設の可能性も考えられていますが、ここからは荷札と思われる木簡数点が出土しています。

出土遺物

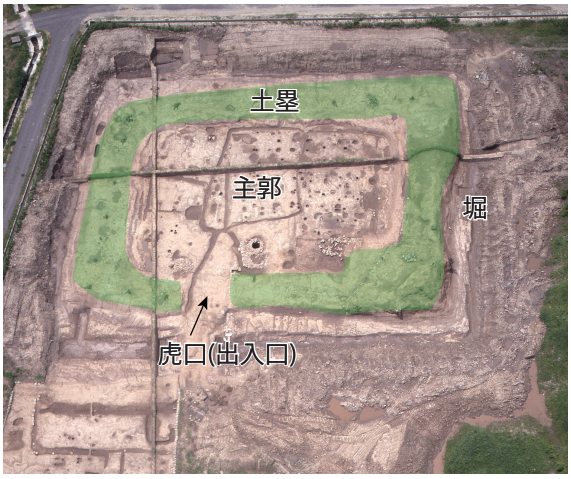
「国厨」墨書土器

伊賀の中世城館の特徴

屋敷の周囲を土塁や堀で囲んだものを「館」といいます。土塁や堀が大規模になったり、堀内の区画が複数になったりして通常の館の域を超える場合は、一般的に「城」といいます。（平地にあれば平城、山の上にあれば山城等）伊賀に多数ある「館」は、集落内に立地し、平面形は50m四方の方形で、周囲を土塁と堀で囲まれる、という特徴を持っていました。



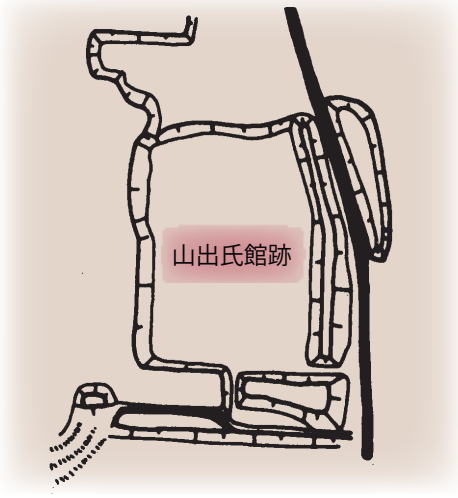
「城」の構造



伊賀の「館」（箕枡氏館跡）

■山出氏館跡（東条字屋敷ノ下、16世紀代?）

敷地の規模は50m×70m（内部は27m×40m）で、東と南の二方に土塁が残っています。天正伊賀の乱（1578年～1579年。織田信長の侵攻に対する戦い）を記した書物『伊乱記』には、東条村の山出次郎が参戦した記事が見られます。



■菅野氏館跡（土橋字中出、16世紀代?）

敷地の規模は30m×40mで、北・西・南の三方に土塁が残っています。『伊乱記』には、土橋村菅野の活躍についての記載が見られます。

■鹿島氏館跡（土橋字中出、16世紀代?）

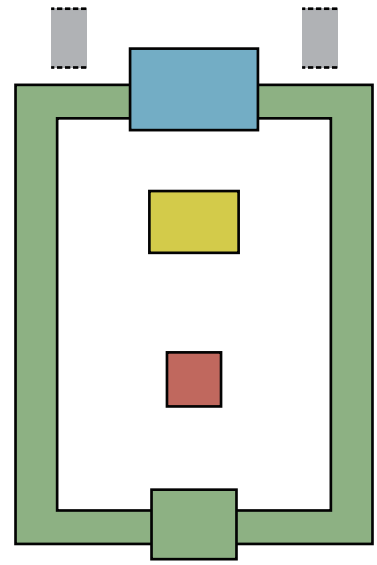
敷地の規模は35m×40mで、周囲に土塁がめぐっています。隣接する菅野氏館の一部にあたるのかどうかははっきりしません。

『三重の中世城館』三重県教育委員会1976年

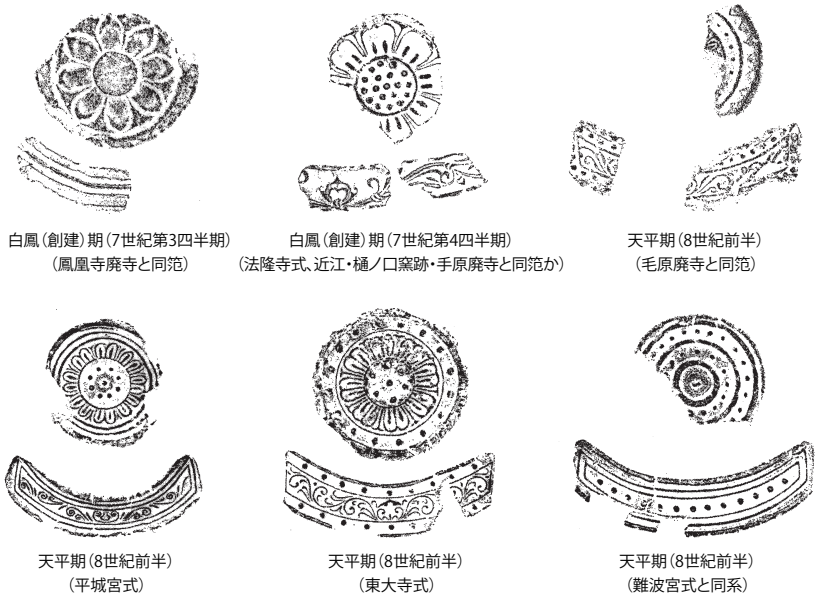
■三田廃寺（三田、7世紀後半～中世?）

地籍図から、中門・塔・金堂・講堂が一直線に並ぶ四天王寺式の伽藍配置であったとされています。採集された瓦から、7世紀後半の建立と考えられています。阿拝郡の郡寺に相当し、阿閉氏の氏寺であったと想定されています。

四天王式伽藍配置図



採取された瓦



白鳳（創建）期（7世紀第3四半期）（鳳凰寺廃寺と同笵）

白鳳（創建）期（7世紀第4四半期）（法隆寺式、近江・樋ノ口窯跡・手原廃寺と同笵か）

天平期（8世紀前半）（毛原廃寺と同笵）

天平期（8世紀前半）（平城宮式）

天平期（8世紀前半）（東大寺式）

天平期（8世紀前半）（難波宮式と同系）

『伊賀市史』伊賀市2011年

見学について

- 埋蔵文化財センター職員が先導し、５～６ページのコースを回ります。
  コースを外れることのないようご協力お願いいたします。
- 見学地では、埋文センター職員が解説いたします。

諸 連 絡

- 交通事故等、安全面には、十分ご注意ください。
- けが、病気（体調不良）等の際は、近くの埋文センター職員にお申し出ください。
- ごみは各自でお持ち帰りください。

解散場所

- JR伊賀上野駅　改札口前
  ※全員到着後、アンケートをご記入いただき解散とさせていただきます。

緊急連絡用携帯 ……０８０－３６３８－５４５７

緊急連絡先（公共機関・病院など）

- 伊賀市府中地区市民センター（公民館）……０５９５－２３－３０２７
- 伊賀市消防署 …… ０５９５－２４－９１００
- 吉村クリニック（土橋192-1）…… ０５９５－２２－２１２１
- 伊賀地域救急医療情報センター ……０５９５－２４－１１９９
- 伊賀警察署 …… ０５９５－２１－０１１０
- ＪＲ西日本お客様センター ……０５７０－００－２４８６

列車時刻案内

［ＪＲ関西線］伊賀上野駅

亀山方面	加茂方面
１５：２１	１５：５９
１６：１９	１６：５４
１６：５４	

［伊賀鉄道］

伊賀上野駅 →	上野市駅（乗り換え）
１５：２１	１５：４２
１６：２１	１７：０４
１６：５６	１７：３１